

ドイツ語（初級 B） 第 27 回 zu 不定詞、es の用法（仮主語、仮目的語）

範囲：教科書第 16 課 B、第 17 課 A（S. 64-67）

《今回の基本例文》

96. Ich hatte die Gelegenheit, Frau Meier kennenzulernen. (CD83-3)

私はマイヤーさんと知り合う機会を持った。

[zu 不定詞の付加語的用法、zu 不定詞（分離動詞）]

97. Wir gingen ins Café, um gemütlich zu plaudern. (CD84-1)

くつろいでおしゃべりするため、私たちはカフェに入った。

[um+zu 不定詞]

98. Kann man den Direktor jetzt sprechen? – Nein, er ist jetzt nicht zu sprechen.

(CD85-1)

いま部長にお目にかかれますか？ – いえ、いま部長はお会いできません。

[sein+zu 不定詞]

99. Er wartet darauf, endlich befördert zu werden. (CD87-2)

彼は、やがて昇進させてもらえるのを待っている。

[es の用法（仮目的語 es）、zu 不定詞を受ける前置詞と人称代名詞の融合形、zu 不定詞（受動不定詞）]

I 不定詞の基礎

B. 不定詞の用法 (S. 64)

■ 不定詞と不定詞句のまとめ

一般の不定詞句：修飾句 - 目的語／述語内容語 - 動詞の不定詞

完了不定詞：修飾句 - 目的語／述語内容語 - 過去分詞 - haben / sein

受動不定詞：修飾句 - 過去分詞 - werden

◇ ごく初期の授業で、ドイツ語の文の基本構成要素である不定詞句について学んだ。不定詞句の語順は日本語に近く、最後を（動詞の）不定詞とする。（⇒教科書 S. 9、授業第 3 回配付資料 S. 1-2）

Deutsch sprechen ドイツ語を話す

sehr gut Deutsch sprechen 極めてよくドイツ語を話す

（副詞）（4 格）（不定詞）

◇ 過去を言う不定詞句、受動を言う不定詞句は、

・完了不定詞（不定詞の過去形、「～した」）：過去分詞 haben / sein （⇒教科書 S. 50）

* もちろん、haben / sein の使い分けは、その動詞が haben 支配か sein 支配かに従う。

・受動不定詞（不定詞の受動態、「～される」）：過去分詞 werden

Deutsch gelernt haben (haben 支配の場合) ドイツ語を学んだ
nach Berlin gefahren sein (sein 支配の場合) ベルリンに行った
von meinem Vater geliebt werden 私の父によって愛される

■ zu 不定詞のつくり方

zu 不定詞 ← 不定詞句において不定詞の一つ前に**前置詞 zu**を挿入

◇ いま説明した不定詞句を文中で「**～すること**」の意味で使うには、基本的には不定詞の前に前置詞 **zu** を挿入して **zu 不定詞**とすることが必要である。

* 英語の *to* 不定詞に相当する。ただし、例によって語順はまったく異なる。

Deutsch **zu** sprechen ドイツ語を話すこと
= *to speak German*
sehr gut Deutsch **zu** sprechen 極めてよくドイツ語を話すこと
= *to speak German very well*
* ドイツ語の zu 不定詞と英語の *to* 不定詞の語順の違いを比較せよ。

◇ 完了不定詞を zu 不定詞にするときは **haben** や **sein** の前に、受動不定詞を zu 不定詞にするときは **werden** の前に **zu** を置けばよい。

Deutsch gelernt zu haben ドイツ語を学んだこと
nach Berlin gefahren zu sein ベルリンに行ったこと
von meinem Vater geliebt zu werden 私の父によって愛されること

◇ 分離動詞を zu 不定詞にするときは、前綴りと基礎動詞のあいだに zu を挿入して一続きに書く。

an|kommen 到着する
→ **anzukommen** 到着すること
an dem Ausflug teil|nehmen 遠足に参加する
→ **an dem Ausflug teilzunehmen** 遠足に参加すること
* 真ん中に zu が挿入されるので、分離動詞の過去分詞（真ん中に *ge* が挿入される）と似たかたちとなる。
* * 非分離動詞は、verstehen → **zu verstehen** のように、普通に zu 不定詞化すればよい。

練習 1

[] 内の語彙を参考に、日本語の意味になる zu 不定詞をつくれ。

1. 物理学を研究すること [Physik *f.* 物理学 studieren *vt.* 〈4 格〉を研究する]
2. 疲れていること [müde *adj.* 疲れた sein *vi.* である]
3. 極めてよくドイツ語を話すこと [sehr *adv.* 極めて gut *adj.* よい]
4. 明日ミュンヘンに到着すること [an|kommen *vi.* 到着する]
5. 会議を開始したこと [Sitzung *f.* 会議 an|fangen *vt.* 〈4 格〉をはじめる]
6. もう帰宅したこと [schon *adv.* もう nach Haus gehen 帰宅する]
7. 警察に逮捕されること [Polizei *f.* 警察 verhaften *vt.* 〈4 格〉を逮捕する]

1 zu なし不定詞

das + 動詞（語頭大文字） → 中性名詞「～すること」

◇ いくつかの場合には、**zu なし不定詞**（英語でいう原形不定詞）をそのまま「～すること」の意味で使用できることがある。それは、

- ・ ことわざなど慣用表現の場合。

Irren ist menschlich.

過ちは人の常（*To err is human.*）。

- ・ 動詞の語頭を大文字にして**中性名詞「～すること」**をつくる場合。英語の動名詞（-ing）に近い。こうした zu なし不定詞は、中性の定冠詞（1格なら **das**）をとともなう場合もある。

- essen (vt. 〈4格〉を食べる) → das Essen (n. 食べること、食事、食べ物)

- leben (vi. 生きる) → das Leben (n. 生きること、生活、生存)

- sein (vi. ある、〈1格〉である) → das Sein (n. あること、存在)

- da|sein (vi. そこにある、いる) → das Dasein (n. そこにあること、現存在)

Mein Hobby ist [das] Lesen.

私の趣味は読書です。

* lesen (vt. 〈4格〉を読む) → das Lesen (n. 読むこと、読書)

Er übte mit den Kindern [das] Rechnen.

彼は子供たちと計算の練習をした。

* rechnen (vi. 計算する) → das Rechnen (n. 計算)

◇ 中性名詞扱いの zu なし不定詞を用いた重要表現。

- * こうした表現も知っているると便利だが、初学者が優先的に覚えるほどのものでもない。

- ・ beim + zu なし不定詞：「～する際に」

* beim は bei dem の融合形で、中性3格の定冠詞 dem が入っているのは、前述の通り zu なし不定詞は中性名詞であるため。

- ・ gerade beim zu なし不定詞 sein：「ちょうど～しているところである」

* ドイツ語には進行形がないが、どうしても「ちょうど～しているところである」と言いたい場合、この表現を使えばよい。

Sie war gerade beim Kochen.

彼女はちょうど料理をしているところだった。（*She was just cooking.*）

* kochen (vt. 〈4格〉を料理する) → das Kochen (n. 料理)

- ・ zum + zu なし不定詞：「～するために」

* やはり zum は zu dem の融合形で、中性3格の定冠詞 dem が入っている。

Packen Sie bitte die Pizza zum Mitnehmen ein!

持ち帰り用にピザを包んでください。

* mit|nehmen は分離動詞（〈4格〉を持ち帰る）。また、分離動詞 ein|packen（〈4格〉を包装する）も使われている。

** いわゆる「店内でお召し上がり」に対する「お持ち帰り」を依頼している文。

*** 一方、「店内でお召し上がり」に関しては、日常会話では zum Hieressen が使われることが多いようである。*hier|essen という分離動詞は本来ないのだが、zum Mitnehmen からの類推でそう言われているらしい（あまり正しいドイツ語ではない）。

II zu 不定詞の用法

2 zu 不定詞 第 17 課 A 3 zu 不定詞を先取りする es (S. 65, S. 67)

zu 不定詞は、

- ・ 名詞扱いの場合（～すること） → 主語、述語内容語、目的語用法
- ・ 前の名詞を修飾する場合（～する〇〇） → 付加語用法

* 英語でいう副詞用法（～するために）には、前置詞 + zu 不定詞を用いる。 (⇒2の e))

◇ 英語の to 不定詞は、名詞用法、形容詞用法、副詞用法の 3 つで説明されることが多い。

To learn German is not easy. (名詞用法)

ドイツ語を学ぶことは簡単ではない。

* to learn German が「ドイツ語を学ぶこと」という名詞扱いになり、それが主語になっている。

He is not a man to tell a lie. (形容詞用法)

彼は嘘をつくような人ではない。

* to tell a lie (嘘をつく) が前の名詞 a man を修飾している。

He went to Berlin to see the sights. (副詞用法)

彼は観光するためにベルリンに行った。

* to see the sights (観光する) が「観光するために」という副詞扱いになっている。副詞用法であることを明示するため、in order to see the sights と書く場合もある。

◇ 教科書ではドイツ語の zu 不定詞の用法を主語、述語内容語、目的語、付加語の 4 つとしているが、

- ・ 英語の名詞用法 → 主語、述語内容語、目的語
- ・ 英語の形容詞用法 → 付加語
- ・ 英語の副詞用法 → 単体ではなし。in order to にあたる um ... zu 不定詞（後述）を用いる。

* なお、英語では、前置詞 for によって to 不定詞に文の主語とは別の意味上の主語をつけることができる。一方、ドイツ語の zu 不定詞には、このような用法はない。

◇ a) 主語用法は、「～すること」という名詞扱いになる zu 不定詞を文の主語とする用法である。ただし、主語が長くなるのは好まれないため、**仮主語の es** を立てるときが多い。その場合、本来の主語である zu 不定詞は文末に置かれる。

* 仮主語 es を使うのは、従属の接続詞のときと同じ。 (⇒教科書 S. 35)

Viel zu rauchen ist nicht gut für die Gesundheit.

= **Es** ist nicht gut für die Gesundheit, viel zu rauchen.

たくさん喫煙するのは健康によくない。

* 後者の文でも、本来の主語は viel zu rauchen である。

** zu と不定詞以外の文成分（この場合は viel）を含む zu 不定詞はコンマで区切られるのが普通だが、短い場合はコンマなしのパターンもある（上の文など）。

Es freut mich, Sie kennenzulernen.

あなたと知り合いになれてうれしい。(= あなたと知り合いになることが、私を喜ばせる。)

* 本来の主語は zu 不定詞 = Sie kennenzulernen。分離動詞の zu 不定詞に注意。

◇ b) **述語内容語用法**は、「～すること」という名詞扱いになる zu 不定詞を文の述語内容語とする用法である。もちろん、述語内容語をとる自動詞（sein, werden, bleiben...）とともに用いられる。

Sein Wunsch ist, seinen Sohn studieren zu lassen.

彼の望みは、息子を大学に行かせることである。

* 使役動詞 lassen を用いた使役の不定詞句 seinen Sohn studieren lassen（彼の息子を大学に在籍させる）の zu 不定詞。

（⇒教科書 S. 31）

** この zu 不定詞は zu と不定詞以外の文成分を含みかつ長いいため、コンマで区切られている。

◇ c) **目的語用法**は、「～すること」という名詞扱いになる zu 不定詞を文の目的語とする用法である。もちろん、4 格目的語をとる他動詞とともに用いられる。この場合、**仮目的語の es** を先行させるのが好まれ、その際には zu 不定詞は文末に移動する。

Ich habe es schon aufgegeben, ihn telefonisch zu erreichen.

私は彼を電話でつかまえることをもうあきらめた。

* 仮目的語 es が入っているため、本来の目的語である ihn telefonisch zu erreichen（彼に電話によってたどりつくこと）は文末に置かれている。

** 分離動詞 aufgeben は他動詞「〈4 格〉をあきらめる」。ちょうど give up と同じ。

Ich habe es wieder einmal vergessen, ihm das Geld zurückzugeben.

私はまたしても彼にお金を返すのを忘れた。

* 本来の目的語は zu 不定詞 = ihm das Geld zurückzugeben。引き続き分離動詞の zu 不定詞に注意。

** こうした es はなくても文が成立するが、ある方が好まれる。

◇ c) 目的語用法のうち、zu 不定詞が動詞＋前置詞による熟語の目的語となる場合、前置詞と人称代名詞の融合形（da＋前置詞もしくは dar＋前置詞）を先行させる。前置詞と仮目的語 es（＝人称代名詞の一種）が並ぶと、必ず融合形に変化してしまうためである。（⇒教科書 S. 27）

Ich freue mich auf den Ausflug. （⇒教科書 S. 53）

私は遠足を楽しみにしている。

* 再帰動詞 auf et⁴. sich freuen（〈4 格〉を楽しみにしている、⇒教科書 S. 53）を用いた普通の文。

Ich freue mich darauf, in den Ferien an die See zu fahren.

← Ich freue mich auf es, in den Ferien an die See zu fahren.

私は休暇で海辺に行くのを楽しみにしている。

* 上の文の den Ausflug（遠足）のところに in den Ferien an die See zu fahren（休暇で海辺に行くこと）を代入する、と考える。すると、前置詞 auf の次に仮目的語 es が来て、Ich freue mich *auf es...の文ができる。しかし、ドイツ語では *auf es は自動的に前置詞と人称代名詞の融合形 darauf に変化してしまうことになる。

Ich bitte Sie darum, möglichst pünktlich zu sein.

← Ich bitte Sie um es, möglichst pünktlich zu sein.

できるだけ時間を守ってくださるよう、お願いいたします。

* 使用されている熟語は jn. um et⁴. bitten（〈4 格〉に〈4 格〉を頼む）。（⇒教科書 S. 24）

** 同じ理屈で、前置詞 um のあとに möglichst pünktlich zu sein を先取りする仮目的語 es が来て、Ich bitte Sie *um es...の文ができるが、*um es は自動的に前置詞と人称代名詞の融合形 darum に変化してしまう。

◇ d) **付加語用法**は、文中の一つの名詞を **zu** 不定詞で修飾する用法である（「～する○○」）。付加語用法の **zu** 不定詞は原則として直前の名詞を修飾するが、**zu** 不定詞句が長くなる場合、やはり文末に持って行って修飾される名詞から離れることがある。

Haben Sie Lust, an der Versammlung teilzunehmen?

あなたは集会に参加する気がありますか。

* an der Versammlung teilzunehmen が Lust (f. 意欲) を修飾。この **zu** 不定詞は **zu** と不定詞以外の文成分を含み長いので、コンマで区切られている。

Soll ich etwas zu trinken holen?

なにか飲み物を取ってきてやろうか。

* 一方、こちらの **zu** 不定詞は **zu** と不定詞のみであるため、コンマがない。

** zu trinken が不定代名詞 etwas を修飾。英語の something to drink に相当。

2 (続き) 前置詞+zu 不定詞 (S. 65)

～するために = um ... zu 不定詞
(= in order to ...)

◇ e)にあるのは、特定の**前置詞**と **zu** 不定詞を結んだ**熟語表現**である。前置詞はその **zu** 不定詞全体の直前に置かれる。

	前置詞+zu 不定詞	意味	(英語)
1)	um ... zu 不定詞	～するために	in order to...
2)	ohne ... zu 不定詞	～することなしに	without -ing
3)	anstatt ... zu 不定詞 statt ... zu 不定詞	～する代わりに	instead of -ing

◇ 教科書の例文の説明。

Er ging an die Universität Bonn, um Chemie zu studieren. (um ... z 不定詞)

彼は化学を学ぶためにボン大学に行った。

* 大学への在籍には前置詞 an を用いる。この場合、ボン大学が移動の目的地であるため、an+4 格が使われている。

Sie leben zusammen, ohne verheiratet zu sein. (ohne ... zu 不定詞)

彼らは結婚せずに一緒に暮らしている。

* ohne ... zu 不定詞は、nicht などがなくとも否定の意味になっていることに注意。

** verheiratet は verheiraten (〈4 格〉を結婚させる) の過去分詞に由来する形容詞「結婚した」。 (⇒教科書 S. 46)

Er rief mich an, statt mir zu schreiben. (statt ... zu 不定詞)

彼は手紙を書く代わりに電話をしてきた。

* [an]statt ... zu 不定詞も、上と同様、nicht などがなくとも否定の意味になる。

** anrufen は「〈4 格〉に電話する」。この schreiben は自動詞「〈3 格〉に手紙を書く」。

2（続き） 動詞＋zu 不定詞

～されうる（受動の可能）、されねばならない（受動の義務）	
・ sein → 第 2 位	
・ zu 不定詞 → 文末	
～しなければならない（義務）	
・ haben → 第 2 位	
・ zu 不定詞 → 文末	

◇ f)～h)にあるのは、特定の動詞と zu 不定詞を結んだ熟語表現である。

	動詞＋zu 不定詞	意味	(英語)
f)	sein＋zu 不定詞	～されうる（受動の可能）、されねばならない（受動の義務）	be to...
g)	haben＋zu 不定詞	～しなければならない（義務）	have to...
h)	brauchen＋zu 不定詞	～する必要がある	need to...
	scheinen＋zu 不定詞	～のように思われる	seem to...

* さしあたり、f)と g)を覚えておくとよい。

◇ f) sein＋zu 不定詞は、受動の可能（「～されうる」）もしくは受動の義務（～されねばならない）を表す。英語の be to ...にもこうした用法がある。

（受動の可能）Ist Herr Müller zu sprechen?

ミュラー氏とお話しできますか（ミュラー氏は話しかけられることができますか）。

* この sprechen は「〈4 格〉と話す、〈4 格〉に話しかける」の意味。

（受動の義務）Die Miete ist im Voraus zu zahlen.

家賃は前払いされなければならない。

* im Voraus は「あらかじめ、前もって」。

能動文でも受動の意味になることに注意。可能を表す話法の助動詞 können や義務を表す話法の助動詞 müssen で書き換えた場合、次のいずれかになる（どちらも話法の助動詞の文なので当然 zu は消える）。

・ 話法の助動詞を含む受動文にする （⇒教科書 S. 56）

・ 主語に man を立て、もともとの主語（1 格）を 4 格目的語にする

Kann Herr Müller gesprachen werden?

ミュラー氏とお話しできますか（ミュラー氏は話しかけられることができますか）。

Kann man Herrn Müller sprechen?

ミュラー氏とお話しできますか（ミュラー氏に話しかけることができますか）。

* Herr は特殊変化の名詞であり、1 格以外はすべて Herrn となる。ここでは 4 格。 （⇒教科書 S. 18）

Die Miete muss im Voraus bezahlt werden.

家賃は前払いされなければならない。

Man muss die Miete im Voraus bezahlen.

家賃を前払いしなければならない。

◇ g) **haben+zu** 不定詞は**義務**（能動の義務、～しなければならない）を表す。英語の *have to ...*。

Wir haben noch eine Stunde **zu** fahren.

= Wir müssen noch eine Stunde fahren.

私たちはもう一時間走らなければならない。

* eine Stunde は副詞的 4 格「1 時間分だけ」。

◇ h) **brauchen+zu** 不定詞は「～を必要とする」。英語の *need to ...* に同じ。

Ab morgen brauchen Sie nicht mehr **zu** kommen.

あなたは明日からもう来なくてよい。

* ab は（一応）3 格支配の前置詞「～から」だが、どちらかといえば副詞と併用することが多い（ここでは morgen）。

◇ h) **scheinen+zu** 不定詞は「～のように思われる」。英語の *seem to ...* に同じ。

* scheinen の 3 基本形は不規則変化であることに注意。

Er scheint die Verabredung vergessen **zu** haben.

彼は約束を忘れたようである。

* 完了不定詞 die Verabredung vergessen haben（約束を忘れた）の zu 不定詞。

** Verabredung の元の動詞 verabreden（〈4 格〉を申し合わせる）は、分離動詞 ab|reden（vt. 〈4 格〉を説得する）に非分離動詞の前綴り ver-がついたもの。verabreden も Verabredung も、ab の部分を強く読む。

練習 2

zu 不定詞を用いてドイツ語作文をせよ。その際、[] 内の語彙を用いること。

1. To learn German is not easy. [leicht adj. 簡単な]
2. 私の希望は大学で物理学を学ぶことである。[Physik f. 物理学 studieren vt. 〈4 格〉を専攻する]
3. 彼は明日、早起きするつもりだ。[vor|haben vt. 〈4 格〉を計画する früh auf|stehen 早起きする]
4. He is not a man to tell a lie. [lügen vi. 嘘をつく]
5. He went to Berlin to see the sights. [die Sehenswürdigkeiten besichtigen 観光する]
6. ドイツ語を学ばずにドイツに行くな。[fliegen vi. （飛行機で）行く]

■ 練習問題の補足

Übung 2 (S. 66)

3. an jm./et³. vorbei|gehen は分離動詞の自動詞で、「〈3 格〉のかたわらを通り過ぎる」の意味。

Übung 1 (S. 67)

1. an et⁴. denken で「〈4 格〉のことを考える」。 (⇒教科書 S. 28)
2. auf et⁴. warten で「〈4 格〉を待つ」。 (⇒教科書 S. 24)
3. mit et³. rechnen で「〈3 格〉を計算に入れる」。

Ⅲ es の用法：仮主語、仮目的語

A. es の用法（2）：後続の語句を先取りする es （S. 64）

■ 仮主語、仮目的語としての es

名詞節や zu 不定詞が長い場合：es で先取りする

→ 名詞節や zu 不定詞（＝本来の主語、目的語）は文末

* すでに何度か登場し、解説した。（⇒教科書 S. 35, S. 65）

1 名詞・代名詞を先取りする es

◇ 名詞節の副文や zu 不定詞ではなく、一般の名詞や代名詞を先取りする用法。いずれも熟語的表現になる。あくまでも本来の主語は es ではなく後続の名詞や代名詞なので、そちらが 1 格となることに注意。

・ Es passiert ... : 「...が起こる」

Es passierte heute Morgen ein schwerer Unfall.

(1 格)

今朝、重大事故が起きた。

* 本来の主語は ein schwerer Unfall。よって、4 格 (einen schweren Unfall) などではなく 1 格になっている。

・ Es ist ... : 「...がある」 (es gibt 構文を使う方が普通)

Es war niemand zu Haus.

(1 格)

家には誰もいなかった。

= Es gab niemanden zu Haus.

(4 格)

◇ 文学的文章などで書き出しを示したりする場合にも、こうした es が文頭に置かれることがある。

Es saßen viele Leute im Zug.

(1 格)

列車には大勢の人が座っていた。

* 本来の主語が複数形なので、動詞が複数 3 人称に対応する saßen になっている (saß ではなく)。

2 副文を先取りして

◇ 名詞節の副文 (dass 節、ob 節、間接疑問文など) は、仮主語や仮目的語の es で先取りすることができる。その場合、本来の主語や目的語である名詞節の副文は、コンマで挟んで文末に配置する。

* もちろん、英語の it にも存在する用法。

Es freut mich, dass du kommst.

君が来てくれてうれしい。(＝君が来ることが、私を喜ばせる。)

* es は仮主語で、本来の主語は dass 節 = dass du kommst。詳しい解説は授業第 13 回配付資料 S. 3 へ。

Mir ist es ganz egal, was sie über mich denkt.

彼女が私のことをどう思おうと、私はまったく構わない（＝私にとってまったくどうでもよい）。

* es は仮主語で、本来の主語は間接疑問文 = was sie über mich denkt。 （⇒教科書 S. 35）

** über は「～について」の意味の前置詞。 （⇒授業第 8 回配付資料 S. 3）

練習 3

（）内の指示に従い、以下の日本語の意味になるようにドイツ語作文をせよ。[] 内に語彙が与えられている場合は、それを用いること（各語彙は適切なかたちに変化させなければならない場合もある）。

1. この川で泳ぐのは危険である。（仮主語 es を用いないで）

[gefährlich adj. 危険だ in diesem Fluss この川で schwimmen vi. 泳ぐ]

2. この川で泳ぐのは危険である。（仮主語 es を用いて）

3. 美術館のなかでの写真撮影は禁止されている。（仮主語 es を用いないで）

[Museum n. 美術館 fotografieren vi. 写真を撮る verboten adj. 禁止された]

4. 美術館のなかでの写真撮影は禁止されている。（仮主語 es を用いて）

5. 彼は明日、はやく起きるつもりである。（仮目的語 es を用いないで）

[früh adv. 早く aufstehen vi. 起きる 〈4 格〉を計画している vt. vorhaben]

6. 彼は明日、はやく起きるつもりである。（仮目的語 es を用いて）

7. 彼女はラテン語を学びはじめる。

[Lateinisch n. ラテン語 mit et³. anfangen 〈3 格〉をはじめる]

8. 彼はドイツ語を学ぶのを諦めねばならなかった。

[auf et⁴. verzichten 〈4 格〉を諦める]

9. 君と映画に行く時間はない。

[Zeit f. 時間 ins Kino gehen 映画に行く]

10. 私はベルリンに事務所を開く計画を持っていた。（現在完了で）

[Büro n. 事務所 aufmachen vt. 〈4 格〉を開く 計画 m. Plan]

11. 私は自動車を買うためにお金を貯めている。

[Auto n. 自動車 Geld sparen お金を貯める]

12. 私の同僚は、日本文化についての講演を行うためにベルリンに行った。（現在完了で）

[Kollege m. 同僚 japanische Kultur 日本文化 einen Vortrag halten 講演を行う]

連絡先など

教員のメールアドレス：tokan@nifty.com 授業のウェブサイト（進捗表示、配付資料あり）：<https://hhasegawa.la.coocan.jp/lecture/>